

全ての人が使いやすくアクセスしやすい、居心地が良く快適な庁舎

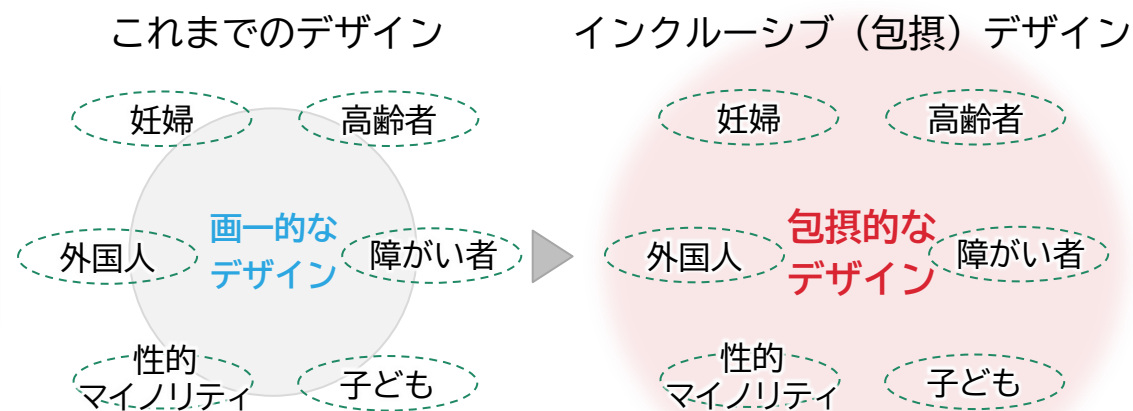
整備方針

- ・年齢・性別・障がいの有無・国籍を問わず、多様な視点を踏まえ、誰もが安心・公平に利用できる空間を目指し、設計初期段階から段階的に多様な利用者の意見を取り入れるためのインクルーシブデザインの手法を導入します。

(1) インクルーシブデザインの導入

【インクルーシブ（包摂）デザイン】

従来の設計プロセスでは考慮されにくかった障がい者、高齢者、こども、外国人など多様な当事者の視点やニーズを積極的に取り入れ、誰もが公平に利用できる空間を創出する設計手法を指します。



新庁舎の整備にあたっては、段階的に多様な利用者の意見を取り入れていきます

基本計画

- ・現庁舎での使い勝手等について意見聴取

基本設計

- ・設計初期段階で動線や平面構成等についての意見聴取

実施設計

- ・細部も含めた具体的な使い勝手等についての意見聴取

施工

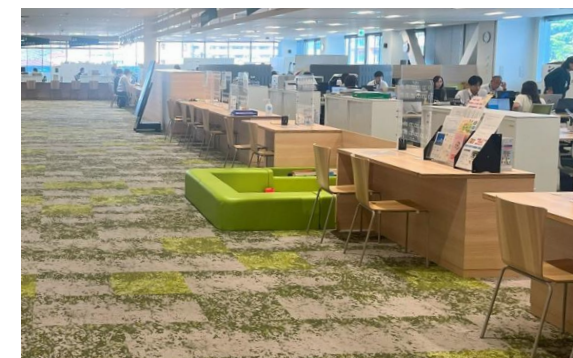
- ・モックアップによる細部の確認、意見聴取

運用

- ・運用段階での意見聴取、振り返り

(2) 誰もが安心して快適に利用できる空間の整備

- ・トイレは、車椅子利用者やオストメイト利用者、子育て世代等の意見を聞き、誰もが安心して利用できるよう整備します。
また、想定される利用者数に基づき、十分な数のトイレを整備します。
- ・授乳室やキッズスペースは、子育て世代等の意見を聞き、ドア幅やベビーベッドの高さなど使いやすさに配慮して整備します。
- ・カウンターや記載台は、車椅子利用者や子育て世代等の意見を聞き、高さ等に配慮して整備します。



窓口に隣接したキッズスペース
(守山市役所)

(3) 誰もが安全で円滑に通行できる移動空間の整備

- ・案内サインは、色覚多様性の方や外国人等の意見を聞き、色彩やピクトグラムなどを組み合わせ、直感的でわかりやすいデザインとします。
- ・点字ブロックや音声誘導装置は、視覚障がい者等の意見聞き、安全性を十分に考慮して整備します。



明度差のある投影サイン
(伊丹市役所)

【意見を踏まえて
対応した本市事例】



赤色が見にくいとの意見を元に
非常ボタンの色を緑色に変更
(熊本城ホール)



施工段階での意見を元に
肘が当たらないよう手摺位置を調整
(熊本城ホール)



要望により小便器の上部に手摺を設置
(東区役所)